

⚠ 使用上の注意 ⚠ してはいけないこと

(守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなる。)

1. 次の人は服用しないこと。(1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。(2) 本剤又は他の解熱鎮痛薬、カゼ薬を服用してぜんそくを起こしたことがある人。(3) 15歳未満の小児。(4) 出産予定日12週以内の妊婦。2本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しないこと。他の解熱鎮痛薬、カゼ薬、鎮静薬
3. 服用前後は飲酒しないこと。4. 長期連用しないこと。

相談すること

1. 次の人は服用前に医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること。(1) 医師又は歯科医師の治療を受けている人。(2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。(3) 授乳中の人。(4) 高齢者。(5) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。(6) 次の診断を受けた人。心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍
 2. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるので、直ちに服用を中止し、この文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること。皮膚：発疹・発赤、かゆみ、青あざができる／消化器：吐き気・嘔吐、食欲不振、胸やけ、胃もたれ、腹痛、下痢、血便、腸鳴
 - 出血／精神神経系：めまい／その他：鼻血、歯ぐきの出血、出血が止まりにくい、出血、発熱、のどの痛み、背中の痛み、過度の体温低下
- まれに下記の重篤な症状が起こることがある。その場合は直ちに医師の診療を受けること。

症状の名称	症状
ショック (アナフィラキシー)	服用後すぐ、皮膚のかゆみ、じんましん、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁等があらわれる。
皮膚剥離症候群 (スティーブス・ジョンソン症候群)、 中毒性表皮壊死融解症、 急性汎発性発疹性膿疱症	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤、赤くなった皮膚上に小さなブツブツ(小潰瘍)が出る。全身がだるい、食欲がない等が持続したり、重症に悪化する。
肝機能障害	発熱、かゆみ、発疹、黄疸(皮膚や白目が黄色くなる)、褐色尿、全身のだるさ、食欲不振等があらわれる。
ぜんそく	息をするときゼーゼー、ヒューヒューと喘る、息苦しい等があらわれる。
再生不良性貧血	青あざ、鼻血、歯ぐきの出血、発熱、皮膚や粘膜が青白くみえる、疲労感、動悸、息切れ、気力が悪くなりやすったり、血尿等があらわれる。
間質性肺炎	階段を上ったり、少し無理をしただけでも息切れがする・息苦しくなる、空せき、発熱等がみられ、これらが急にあらわれたり、持続したりする。
腎障害	発熱、発疹、全身のむくみ、全身のだるさ、関節痛(節々が痛む)、下痢等があらわれる。

3. 5~6回服用しても症状がよくならない場合は服用を中止し、この文書を持って医師、歯科医師、薬剤師又は登録販売者に相談すること。

2包(1包1g)入 ¥200+税



配置期限

副作用被害救済制度 ☎ 01201491931

ねっトンプクA

解熱鎮痛薬

第②類医薬品

金魚印



効能又は効果

- 1) 頭痛・歯痛・拔牙後の疼痛・眠眼痛・耳痛・関節痛・神経痛・腰痛・筋肉痛・肩こり痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・月経痛(生理痛)・外傷痛の鎮痛
2) 悪寒・発熱時の解熱

用法及び用量

- 大人(15歳以上)……………1回1包
15歳未満は服用しないこと。
1日1回を限度とし、なるべく空腹時をさけて服用すること。

成分及び分量 1日量(1包(1g)中)

日局 アセトアミノフェン……………300mg

日局 アスピリン……………400mg

日局 無水カフェイン……………100mg

添加物としてリン酸水素Ca、パレイシヨドン・ブ、CMC-Naを含有する。

<保管及び取扱い上の注意>

- (1) 直射日光の当たらない湿気のない涼しい所に保管すること。(2) 小児の手の届かない所に保管すること。(3) 他の容器に入れ替えないこと。(誤用の原因になったり品質が変わる。)(4) 配置期限を過ぎた製品は服用しないこと。

製造販売元 大和合同製薬株式会社

奈良県橿原市川西町632-1

お問い合わせ先0744-27-3325